

徹底したいびんの仕分け

市内にあるびん回収業者を訪問してみました。ここには、分別収集によって回収されたびんが、すべて集められています。ここでは、原料として再生されるびんと、そのまま再利用されるびんに分けられます。大きな倉庫に見なれた空びんが山積みされているのには驚きました。ここで気づいたことは、今まで死びんだと思っていたびんが、思いもよらず生びんとして束ねられていたことでした。たとえば、慶弔用にいただいた酒びんや調味料びんなど。ドリンク、医薬用、化粧品以外のびんは、ほとんど生びんなのです。

ちなみに、全国の回収びん一覧表を見ると、洋酒・ワインびん85種類、酒・調味料びん10種類、ビールびん10種類、飲料びん39種類というよう



収積場所をレポートする竹内さん

に、数多く分類されています。

収集場所によっては、生びんと死びんの仕分けが、まだ徹底していない所もあるように見受けられます。

昨年の10月から1年間に分別収集で回収されたびんは、生びんが414トで383万円、死びんが1,477トで233万円だったそうです。今まで、これらは、無条件で埋立ごみとして処分されていたのです。しかも、ト当たり4,500円も費用がかかっていたとのこと。この開きの大きさを伺い知るとき、行政と市民が一体となった成果に、大きな喜びを感じずにはいられませんでした。



回収されたびんは、1本1本仕分けされます

地域で生かされる還元金

さて、還元金についてはどうでしょうか。和田町2丁目の町内会長、杉山寿美雄さんのお宅へうかがい、その点を聞いてみました。

この町内では、自主防災用具購入の費用にあて、防災器具や保存食などを確保し、また、年2回の廃品回収の売上金と合わせて、防災体制をガッチリ整えたそうです。

還元金については、各町内にゆだねられ、それぞれ独自性をもって地区のために生かされるそうです。

東海沖地震がクローズアップされている現在、「いざ」というとき、このような備蓄は住民パワーの結集と

して、大きな力となるのではないのでしょうか。

ごみ問題は、可燃物についても省力化の余地が多々あると思います。

資源総輸入国で暮らしている私達は、もっとこのごみ問題に深い関心を払うべきだと思います。

また、ごみを出すルールを無視しての、早朝・夜中など車からの投げ捨てや収集日以外に出したりすることは、ごみ以前に人間性の問題だと思います。

将来、着実な歩みとして小さな守りから大きな実りをとするには、市民総ぐるみの努力が必要だと思います。

あなたの人権は...

12月4日から人権週間です

12月4日から10日までは人権週間です。これは、昭和23年12月10日国際連合総会において、世界人権宣言が採択されたことを記念して定められたもので、今年で34回目。

人権週間事業の一環として、小・中・高校生による「人権マンガ展」

が、12月13日～19日まで市役所2階の市民ギャラリーで開かれます。

また、市役所2階の市民相談室では、毎週木曜日、午前10時から午後3時まで、差別待遇、強迫などの相談に応じる、人権相談を開いていますので、お気軽にご利用ください。

